

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392400075		
法人名	有限会社ケアシステム・ピュア		
事業所名	グループホーム谷崎		
所在地	熊本県玉名郡南関町相谷1789		
自己評価作成日	令和4年 3月 7日	評価結果市町村報告日	令和4年 5月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の方々の健康を考え、毎日の食事・おやつは栄養バランスの整った手作りを提供することを心掛けている。材料は地元の野菜屋やスーパーから購入し、新鮮な物を提供できるようにしている。 ・医師、薬剤師と積極的に連携をとり入所者様の体調管理に力を入れている。毎日のバイタルチェック、全身観察を行い、早期発見、早期対応に努めている。 ・歯科医に訪問してもらい、定期的に利用者様の歯科検診を行っている。食前後には職員が介助しながら口腔ケアを行い、QOLの向上と病気の予防に努めている。 ・利用者様の御家族、役場、社会福祉協議会等との関係づくりを大切にし、利用者様に寄り添ったサービスを提供できるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>以前から地域に根差した法人施設であり、地域住民との関わりも大きいようです。住民からの声掛けや以前の入居者家族との関わりも継続もあり、入居者が「地域住民」である様子が聞かれました。小学校と隣接していることから交流が続いており、ボランティア訪問を受け入れたり、子ども手作りの紙製のメダルを居室に飾ったりと、交流が日常的である様子が見られました。近年、入居者の高齢化や身体状況の変化も見られますが、職員がチームとなって穏やかな生活の中に安心・安全に配慮したケアが行われています。職員面談では「自分の親をここに預けたいと思える施設にしたい」との声が聞かれ、事業所のケアに対する姿勢を窺うことができました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、管理者と職員は出勤時に声に出して読み業務に取りかかるようにしている。職員の研修会では具体例を挙げながら再度理念を共有し確認している。	法人の理念・基本方針はパンフレットや事業所等にも掲載・掲示され事業所の取組みを伝えるものとなっている。職員研修では、職員自ら理念に基づいて行っている実践例を出し合い共有する機会を持ち、職員間の取組みを学び合った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域とのつながりを持ち安心安全に暮らせるように職員が地域清掃に参加する、広報「なんかん」を使って対話するなど日常的に地域との交流を深めている。	事業所は地域の小学校の隣に立地することもあり、以前から地域に親しまれており、事業所も地域住民として職員が清掃作業に出ている。町の広報誌は入居者にも配布し、町の様子を話題にしたり選挙に向く等、入居者も地域の一員としての生活を営んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方や一人暮らしのお年寄りの方が何か困っている場合には寄り添い、本人の支援はもちろんのこと家族へのアドバイスなども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現状、運営推進会議ができていない。リモートでの会議も提案したが、参加者がなかなか募らず、断念した。HPで施設の状況を報告している。	例年、運営推進会議では事業所の取組みや日常生活、地域との関わりを伝えているが、現在コロナ禍で開催ができていない状況である。書面による報告等の必要性を課題として検討している。	コロナ禍でもあり、運営推進会議の開催ができていないようです。運営推進会議は意見交換の場でもあります。コロナ禍であるからこそ事業所の取組みを伝えるとともに、事業所への意見・要望等を得る取組みの工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃のケアサービスにおいて何か疑問や悩み、報告があれば積極的に役場に連絡している。役場からも地域の方について相談されることもある	例年、運営推進会議に町からの参加もあり、事業所の取組みや入居者の状況を伝えている。現在は日頃の報告・連絡・相談や町で把握した地域困り事の相談を受ける等、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な例を挙げ拘束しない方法を研修会で考えている。	4ヶ月に1回法人全体の研修で学んでいる。運営推進会議開催の際は研修内容を報告している。理念研修の際にも職員自らのケアの実践状況を振り返る機会を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い知識を深め、虐待の防止に努めている。利用者様の入浴時には全身観察を行い、虐待の可能性がないか注意している。		

グループホーム谷崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の講習を受け知識を深めている。研修会を行い職員へ伝え社会福祉協議会からも相談支援を受けている入所者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質問などを受けて納得してもらうよう努めている。居宅ケアマネ、家族、管理者というメンバーで行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望については主に職員が直接受け管理者に報告し、運営に反映させる。家族等の意見や要望はLINEなどで代表者が受け付け、利用者や外部者に共有し運営に反映させる。	入居者の様子は日頃の職員との関わりの中で把握している。例年、家族会の開催等で職員との交流の場を持ち意見を表せる関係作りを行っている。現在は面会制限もあるため、県のリスクレベルに応じてウッドデッキでの面会等工夫して受入れている。電話連絡や通信アプリを使って入居者の様子を伝えるとともに意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に各現場に入り、状況把握と職員の意見や提案の受け入れを行っている。またミーティング時に職員は意見や提案を行う。	代表者もケアに携わることから、日頃から職員は意見や提案を表す機会を持っている。ケアの方法や就業環境等、代表者は職員と話し合いながら検討を行い反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に入り、職員と話し合いながら環境を整備する。必要があれば職員の個別相談も受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を行ったり、一人ひとりに合ったペースでのトレーニングを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で現状難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を知り、本人の意向に沿ったサービスを提供することで安心と信頼を感じてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅ケアマネから情報を集めて認知症カフェにて2、3回話し合い、入所につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者、管理者、ケアマネが利用者の初期状況を理解し、ニーズに沿った計画を家族に確認してもらいサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食事の片づけなど利用者の残存能力を生かして共同で作業をすることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を受け入れ、選挙の投票や病院受診、買い物など家族と事業所が連携して行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、利用者に声かけを行い、面会者と本人の関係を確認したり、目線が合うようにサポートする。	従来から地域との関わりも大きく、入居以前も法人のデイサービス等の利用もあり馴染みの関係となっている。コロナ禍である今も以前の入居者家族や知人等からの声掛けも続いており、馴染みの関係が継続されている。	法人全体が地域との馴染みの関係があり、日常的な交流が行われている様子が聞かれました。コロナ禍ではありますが、家族との関わりも大切にされています。コロナが収束した際は入居者それぞれの馴染みの関係支援の継続に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々が孤立しないような席順にしたり、平等に声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーをすぐに作成して提出し病院との連携や病棟看護師との連絡を密にしている。御家族へは今後の流れの相談や他施設などの情報も提供して安心してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り利用者の思いや意向を受け入れられるよう職員で日頃の様子を共有している。	入居者の高齢化や身体状況により、思いの表出が難しい場合もあるが、入居前からのデイサービス利用等で職員との関わりも長く、見守りや声掛け等で思いの汲み取りを行っている。家族にも面会や連絡時等に意向を確認し、入居者本位の支援に努めている。代表者も家族と話す機会を持ち思いの共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設の施設を利用されていた入所者がほとんどでデイサービス、有料老人ホームでの様子を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で御家族、ケアマネの話をもとに御本人の様子をしっかりと見て情報を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、歯科医、歯科衛生士などにアドバイスをもらいながら家族会で状況を報告し、家族の希望を確認して介護計画に活かしている。	日頃の入居者の記録や職員の意見、入居者・家族の意見や意向、医師等関係機関との情報を共有し、入居者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実行表、排泄記録、個々の経過記録を毎日行い、職員間で情報共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の体調や認知症の症状によって臨機応変に対応している。		

グループホーム谷崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の小学校の小学生との交流や自然豊かな景色を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医と歯科医が往診に来られている。看護師はほぼ毎日勤務しており、バイタルチェックや治療、処方箋の管理を行っている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、入居者それぞれの主治医から定期的に往診を受けている。急変時や専門医等の受診の際には家族支援を基本とするが場合によっては職員の支援も行う。希望により歯科医の訪問診療も受け入れ、毎週歯科衛生士による磨き方の研修を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入所者の体調に変化があれば、早急に看護師に伝え、看護師は早期対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からかかりつけ医との関係づくりを行い、入所者が入退院がスムーズに行えるように病院との連絡、必要書類の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りについての説明をし、家族に理解を得ている。	入居時に重度化・看取りの際の事業所の対応を説明し意向を確認し、場合によっては意向確認の書面を得ている。実際にその時を迎えた際には話し合いを重ね、訪問看護や往診等との連携・協力で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が緊急時のマニュアルを確認したり、AEDの研修などを行っている。また、何かあれば看護師が早期対応できるような体制もとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回実施している。夜間想定訓練を実施している。地域との協力体制も整っている。	年3回の避難訓練は、数名ではあるが入居者も参加し実施している。地域には「介護班」として自然災害等に手伝いを頂ける担当住民がおられ、有事の際は連絡網で地域の区長・消防団長にも連絡が届く。自主災害訓練実施の際には事業所の様子を見て頂く機会を持った。	地域との連携もとれており、協力体制が確認できました。災害はいつ起こるかわかりません。火災、自然災害、停電等、様々な想定での訓練、職員間の共有に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方、言葉遣いなどについては定期的に職員に回覧板をまわしたり、ミーティング時に注意したりしている。	言葉遣い等への心構えについては毎日の出勤時に目につくようタイムカードの所に理念と共に掲示している。特に排泄や入浴の場面、馴れ馴れしすぎる態度等に配慮したケアを行っている。気になる場面が見られた際には職員間で注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の日頃の様子や会話を支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者が自分のペースで生活できるように支援している。どのように過ごしたいかは日常会話で意思確認を行っている。できない場合は生活歴などからできる限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装で居られるように声かけをしたり、ひげ剃り・整髪を自由に行える準備をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の口腔体操や食後の口腔ケアを行い、食事が楽しめるように努めている。できる方は食事の片づけを行っている。	季節の行事食にも工夫された法人栄養士の献立を基に季節の地元食材をふんだんに使った手作りの食事を提供している。全体的に食事介助が必要となっているが、食事前には献立を伝える等で食事を楽しむ取組みを行っている。入居者の状態に応じて食事一皿ずつの提供スピードを調節する等個別対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食形態も臨機応変に対応している。水分もお茶だけでなく、いろいろな物を好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な入所者には毎週、歯科医が往診に来ている。歯科衛生士の管理のもと毎食後に各自必要な道具を使い口腔ケアを行う。食前の体操、アイスマッサージなども行っている。		

グループホーム谷崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた時間で誘導を心掛け、はやめにトイレへ行きモレ等がないようにしている。できるだけトイレで排泄されるよう二人介助でも行っている。	入居者の様子やしぐさ、排泄表を用いてできるだけトイレでの排泄を支援している。パット等利用の際にも大きさ等個別に検討し、変更の際には職員間で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認して、看護師が薬のコントロールをしている。食べ物、飲み物などにも注意し自然な排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に必ずバイタルチェックをして体調を確認し本人に相談して入浴を行っている。浴槽には認知症の方に良い柑橘系の入浴剤を入れている。	入居者の体調等確認しながら週2回以上の入浴を支援している。同性介助や入浴剤等、入居者が心地よく安全・安心に入浴ができるよう職員体制も整え支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜しっかりと睡眠がとれるよう昼は体操をしたり、声かけをして刺激を与えることを心掛けている。布団は3日に1度くらい干し、寝具も清潔にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は十分に注意しながら行っている。看護師が薬を管理し、薬の袋に名前を書く、薬入れに名前を書くなど間違えないようにしている。変更があれば申し送りをする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や歌などみんなで楽しめるようにしている。お菓子やコーヒーなどそれぞれの好みに合わせて用意することもある。また家族が持ってこられることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で難しいが、家族や本人の意見を受け容れられる限り自由に外出できるように支援している。散歩や選挙の投票など。	車椅子利用も増え、その日の希望による気軽な外出は難しくなってきた。	身体状況やコロナ禍もあり、訪問時の面談でも日常的な外出が難しい状況であることが窺えました。車椅子での散歩や日光浴等、外気を感じる取組みの工夫に期待します。

グループホーム谷崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい物があれば家族に確認して買い物代行している。お金を所持されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の定期的な電話の支援をしている。要望があれば手紙を出すことができるようにサポートする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい色の照明を使用したり、トイレの表示を大きくしたり入所者が混乱しないように心掛けている。	木造で温かく穏やかな環境を持つ共用空間で過ごす入居者の姿も多く、調理の様子を感じる等生活を感じる空間である。時にはソファで寛ぐ入居者の姿もある。昼食前にはレクリエーションや体操を楽しむ入居者の様子も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室と食堂を自由に行き来でき、ソファでテレビをみたりおしゃべりしたりして過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、思い出の品、写真を置いて落ち着いて過ごせるようにしている。	ユニットそれぞれの居室は安全性からベッド等の場所にも配慮している。入居者の中には使い慣れた筆筒等の持ち込みも見られるが、全般的にシンプルな様子である。	地元からの入居も多く家族の関わりもよく見られる様子が窺えました。入居前からの生活の継続や入居者の好みを感じることでできる部屋作りへの工夫も欲しいと感じる場面もありました。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や持ち物の名前記入など自立した生活ができるように支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム谷崎

作成日 令和4年5月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍で運営推進会議の開催ができていない。当施設の取り組みの発信・意見や要望等の受け入れがあまりできていない。	コロナの状況を見て、7月から運営推進会を実施できるように計画する。利用者の家族の意見や要望を聞く機会を作る。	7月の運営推進会が実施できるように感染対策を改めて徹底し、書類の作成など職員で協力して行う。	約2ヶ月
2	20	コロナ禍であるため、家族や馴染みの人と利用者の面会ができていない。面会を強く希望されている家族もいる。	工夫して面会を再開できるように計画する。	施設内での感染対策（検温・マスク着用等）、ワクチン接種の確認を行う。面会は玄関やカフェを利用して行う。	約2ヶ月
3	35	様々な状況を想定し避難訓練を行う必要がある。	様々な状況を想定した避難訓練を実施し、職員間の連携が素早くできるようにする。	以前のように消防署の方々に協力してもらい避難訓練を行う。	約1ヶ月
4	49	身体状況やコロナ禍で日常的な外出支援があまりできていない。	利用者一人ひとりの状況に合わせて日常的な外出支援を行う。	近くまでの散歩やウッドデッキでの日光浴等、日常的に外気を感じられるように職員全体で支援する。	毎日
5	54	入居者の居室を本人が居心地よく過ごせるように工夫する必要がある。	入居者が入居前の生活や家族とのつながりを感じられるような部屋づくりを行う。	御家族と相談して、思い出の品や家族の写真などを持参してもらおう。手紙やハガキを送っていただけるよう提案する。	約1ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

